

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700933		
法人名	株式会社 アイティーシー		
事業所名	グループホーム 福住苑		
所在地	知多郡阿久比町大字福住字荒古67-2		
自己評価作成日	平成25年2月23日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風平屋建てのホームで2ユニット18人がゆったりと過ごしています。季節感を大切に、職員と入居者が一緒になってホームの飾りつけをするほか、菜園の野菜や花壇の花も、季節の演出をしています。花見や紅葉狩りなど外出の機会が多く、感覚の鈍化を招くことのないよう配慮をしています。また、歌を歌ったり、絵手紙や押し花、ウクレレやハーモニカ演奏など、ボランティアの方々が、ホームに慰問に訪れることも珍しくなく、パンづくりやおはぎ作りといった「食」にまつわる創作活動も盛んに行っています。
認知症の専門医との連携もあり、状況に応じて相談をするほか、平常時の医療面でも、一層の充実を目指し、地域の医療機関との連携や、看護師の雇用など、日頃から介護職員との情報交換がしやすい環境を整備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

五感を生かすケアとして「音楽」「調理参加」「外出」を積極的に行なっている。個別対応は利用者からの要望を待つだけでなく、日頃の会話から要望を汲み取り、会議で提案、実行できるよう支援している。毎月家族へ管理者から手紙を送付しており、家族にホームのことを身近に感じてもらえるよう個別面談も行なっている。季節感を忘れないように花火大会、桜見物、菊花展見学、初詣などに出かけている。ホーム内でも季節のレクリエーションとして、お彼岸のおはぎ作り、雛祭りの興し物、菖蒲湯、ゆず風呂などを楽しんでいる。個々に写経をする人や自分誌を読む人、利用者同士部屋で話をする人など自由に過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護は仁なり」という運営理念を「人生は、自分の力を信じて歩んでゆく」「人生は支えあって共に歩んでゆく」「福の住まう人生を歩んでゆく」と表現し、玄関やスタッフルームに掲示し、日ごろより「福の住まう」ホーム運営を目指している。	介護の心、優しい言葉遣い、まなざし、気配りを大切に思いやりをもって、利用者と職員が支えあい、理念に基づいた日々の生活を送っている。利用者一人ひとりに寄り添った「やさしい」介護が行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩に出かけた時など、あいさつを積極的に行い、また地域の行事への参加など地域の方と言葉を交わす機会を大切にしている。絵手紙や映像を使ったお話など、ボランティアや地域の方の訪問も多い。	自治会に入会しており、地域の行事は回覧板や区長から知らせをもらったりして把握している。「ふれあいの森」音楽会や盆踊りには、利用者と一緒に参加している。ホームの行事は区長を通し、近隣の人に知らせている。また、阿久比図書館には利用者の作品が展示された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や区長をはじめ、近隣にお住まいの方々を招いて、事業所主催の講演会を開催し、認知症の症状や、支援の手法、認知症医療についての情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い視点から率直なご意見がいただけるようになり、ホームの情報も外部に発信されるネットワークが広がった。また、地域の行事案内をいただく機会がふえ、外出の支援につなげている。	メンバーは区長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族となっており、ホームからは理事長、代表、管理者が出席して、2ヶ月に1回開催されている。会議では入居状況や行事報告がされている。区長より色々なアイデアや意見、情報をもらい、地域との交流活動に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の講習会には積極的に参加し、担当者との連絡も日ごろから密にとり、助言や指導を仰ぐようにしている。	阿久比町役場の担当者に運営推進会議の議事録を届けに訪問したり、町主催の講習会や勉強会には積極的に参加して、交流に努めている。また、地域の人の声かけにより健康診査も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の気持ちに寄り添える努力を行い、身体拘束のないケアを実践している。	身体拘束はしないという考えの下、ケアに取り組んでいる。高齢者の虐待についても内部研修を行ない指導している。言葉の拘束については、職員同士が連携を取り、その都度意識するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待の限らず、精神面でも苦痛を入居者に与えることのないよう心がけている。また、研修を通して介護者が感情的にならずに済む介護法を考えるなど、日々その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門家を招き講習会を開催するなど、実践的に制度についての学習機会を設けている。個々の家族間に立ち入らない方針で見守る形をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、共通認識と理解が得られるよう、わかりやすく説明を行っている。また、契約締結後も必要に応じて相談。終末期のケア内容について個別性や家族環境が異なるため難しさを感じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や入居者が、気兼ねなく質問や意見を言えるよう日頃から話しやすい雰囲気作りを大切にしている。運営推進会議、家族面談などでも意見をいただき、反映に向けての検討を行っている。	家族の訪問時に管理者は、意見を出してもらえよう努めている。家族から出された意見は、会議で話し合い、職員に周知している。また、年1回家族面談も行なっており、意見や要望を話してもらおう機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員とのコミュニケーションを密にとり、カンファレンスなどでは、職員からの率直な提案を聞く機会や、意見交換のしやすい雰囲気作りと機会づくりに努めている。	月1回ミーティングにおいて、利用者の状況や実情を職員間で話し合い、日々のケアに実践しており、管理者と職員の関係が良好な様子が窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と直接はなしをする機会を多く持っており、細部まで行き届くよう努めている。勤務形態の要望など、職員が気持ちよく仕事のできる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への機会がとりにくいため、外部講師を迎えスキルアップに取り組んでいる。ケア内容の改善を進め、積極的にケアに関わることを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員研修やグループホーム協会の企画など、同業他社との交流活動に参加し、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活スタイルに基づく些細な要望に対しても、なるべく入居者本人の意向に沿えるよう、時間をかけて不安の除去に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを重視し、家族からのホームでの暮らしに対する要望があれば検討し応じられるよう努めている。初期は特に近況報告をまめにし、丁寧な受けこたえを心がけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の優先順位の決定には、本人・家族・職員の意見交換により見極めを行うよう心がけている。また、地域住民によるインフォーマルな支援の併用により、多面的な関わりを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族として、入居者同士も暮らしの中の役割をそれぞれに担いつつ、得意とする分野では、手伝っていただいたり、教えていただいたりしつつ、共に楽しく暮らすことを目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に案内や声かけをし、一緒に参加していただくようにしている。ケアの内容も家族と一緒に考えるようにしている。より身近に感じて頂きやすいように個人のアルバムを作成し、写真をみながら近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限を設けず、付き合いのあった方との面会ができる環境を維持したい。本人との会話の中に、家族から情報提供をいただいた馴染みの人や場所の話題を織り込みつつ、忘れない支援を試みている。	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう支援している。孫の結婚式に参列したり、知人とカラオケに行ったり、喫茶店へモーニングに出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や雰囲気を見つつ、必要に応じて職員が話題を転換するなど、間に入ることもある。利用者によっては、そっと一緒に空間にいられることもできるよう、ずわる位置にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の入居者への面会や、契約終了後の相談も可能な範囲で応じている。年賀状など、季節の挨拶のほか、退居後に亡くなられた場合でも、家族との付き合いが継続しているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ことばにならない要望や意思の受け止めや、ことばの意味とは違って、「伝えたい要望」に対する理解など、本人とのかかわりを通して行動からよみとり、職員の感じたことを共有し、本人の意向把握に努めている。	職員は日常生活の中で、利用者の何気ない一言を聞き逃すことなく、思いや意向の把握に努め、全職員で情報を共有している。また、会話の少ない利用者については会議で、各職員の気づきなども含めて話し合い、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介者からの情報とともに、入居者のしぐさやむかし話に耳を傾け、生活暦や、生活パターンの把握に努めている。入居後も以前の生活などを聴くようにし、趣向など取り入れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況や病気との兼ね合いなど、背景となる情報を加味したうえで、入居者の言動について、簡潔な記録の実践を通し、職員相互の情報伝達と状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画案は担当者がまず検討、ケアカンファレンスの情報を反映し、家族や関係者との調整がなされて、入居者にとって快適な生活環境を提供できるよう心がけている。	介護計画は見直し期間に合わせて、利用者の担当職員を決めて、全職員で話し合っている。職員の意見・気づきや利用者・家族の思いを反映させ、協力医や関係者と連携を図り、本人本位の計画を作成している。大きな変化が生じた際には随時見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや介護職員からの聞き取りからは、細かな気づきや工夫についての情報が抽出できる。介護記録の目的を理解し、端的に表現する取り組みが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わず生活全般の支援にあたるため、そのニーズも多岐にわたる。必要性や個別ニーズへの状況に応じた柔軟な対応を目標に、「決めつけない介護」をめざしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や行政機関との連携のほか、近隣の中学校からの職場体験学習の受け入れなどを通し、入居者には世代間交流の機会も創出するなど、段階的に地域資源の把握と活用ができてつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関をかかりつけ医とする入居者が多いが、なかには、家族の意向により希望の医療機関を利用される入居者もある。	ほぼ 全利用者が協力医をかかりつけ医とし、月二回の往診の他、認知症専門医の往診が年2回あり、全利用者が受診するなど医療面の充実が図られている。かかりつけ医への受診は家族が行っているが、職員が支援することもあり、受診情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務する看護師により、日ごろの健康管理を行っている。入居者が受診の際には助言したり、医師からの指示を介護職員に伝達する役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに手続きできるように日々のデータを管理し、医療機関の担当者への情報提供を行うとともに、入院期間中の情報と、退院後の支援内容についての協議を重ね、面会により入居者の心身の安定をみて、早期の退院支援を行えるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や家族面談などの機会、早い段階から本人や家族の、重度化した場合の確認・共有できるよう心がけている。また、必要に応じて、個別面談にて意向確認を実施している。	重度化や終末期の対応について、医療行為を行なわない旨を契約時に家族へ説明している。また、各段階で関係者と話し合い、意向を確認しながら本人・家族にとって最善の方法で支援に取り組むことにしている。職員へは緊急時の対応の徹底と救命講習を受ける等、質の向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や高齢者特有の疾病による急変への対応について、勉強会を開催するほか、救急救命講習の受講を奨励している。緊急時に動揺しないように、状況設定を少しずつ変え、模擬訓練の実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	食料や水の備蓄のほか、非常時には、ホームの近く居住する職員や、近隣の住民に協力・支援をいただけるよう、日ごろからの付き合いを大切にしている。避難経路の確認や、消防訓練も定期的実施している。	事業所の防災意識は高く、定期的に夜間を想定した消防訓練を利用者と一緒に行なっている。10月の訓練には消防署の指導の下、初期消火と避難誘導訓練を実施しており、地域防災訓練にも積極的に参加している。また、防災用品の他、水・食料品・紙製品など備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもちながらも、個人の尊厳を守り、慎重に言葉を選ぶ習慣づけを行うとともに、接するときの態度には注意を払っている。	管理者は、常に利用者の人格やプライバシーの確保に努め、職員はこれらの重要性を十分理解し、内外部の研修に参加することで、更に意識向上を目指している。年長者である利用者、一人ひとりを尊重して、同姓介助や言葉かけ、ドア越しの見守り等を重視した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声掛けしたり、見守っている。ことばを置き換えたり、入浴時や寝る前など、時間をおいて個別に確認をしたりするなど、希望を表現しやすい手法やタイミングを計っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を確認し、カンファレンスに上げて細かいケアにつなげるようにしている。職員側が時間配分の主導権をもたないよう心がけているがまだまだ改善の点がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に一回お化粧会を開いて美容部員の方と楽しい時間を持つようにしている。普段も身だしなみには注意をしている。重ね着の多い人やこだわりのある人についても本人の選択を尊重しつつ支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜や、近所でいただいた果物も食卓を飾り、職員とともに作るパンは、つくることも、たべることも楽しみとなっている。下膳を自らされる入居者は多いが転倒されないよう注意している。	昼・夕食は業者作成の食材と、近隣農家からの差し入れや菜園の野菜を活用し、利用者と一緒に作っている。行事食やおやつ等も利用者の希望を聞いて、手作りしている。また、利用者の状態に合わせた食事形態や、代替食品の提供に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行なうとともに、好みや咀嚼力など身体状況に応じた提供方法を実施している。食事の摂取量や水分量についての確認・記録を継続的に行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日ごろの口腔衛生への配慮として歯磨き、うがい、義歯洗浄などの口腔衛生に努めている。また、歯科医師の検診、義歯調整などの支援により、噛んで食事をとることのできる方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる部分は見守り、必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。一人ひとりのスキントラブルにも配慮し、おむつの種類の変更も適宜行っている。	チェック表を活用し、その人のリズムパターンを把握してトイレ誘導に努めている。ポータブルトイレ利用や夜間のみのおむつ利用など、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。失敗した時はさりげない対応で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師、薬剤師の意見を参考に、水分の摂取や食物繊維や乳製品の摂取や、散歩などの軽運動を働きかけることによる自然排便に向けての支援を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順序の選択については、幅を持たせて考慮しており、会話を楽しみながら、ゆったりと入浴を楽しめる支援を心がけている。	利用者の意向に合わせて午前・午後や長・短時間、好みの湯温度などでの入浴を行なっている。入浴拒否の人には、声かけ等に工夫して入浴を促している。また、足浴やシャワー浴、清拭など利用者の体調に合わせて支援し、清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の防止に努め、生活リズムの安定をはかるよう心がけている。夜間のトイレのパターンなど、入居者一人ひとりの、その時々状況に応じた、さりげない支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、誤薬のないよう確認を徹底している。薬の処方と薬情を確認し、服薬の支援をすると同時に症状の変化の確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、掃除、洗濯、水やり、金魚やめだかのえさやり、新聞取りなど個人の力量や意欲に合わせて役割を持っていただき実施を支援している。又、花を飾るなど趣味趣向も積極的に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出を実現できるよう支援している。ホームでも気候などみながら一緒に連れ立って出かける機会を多くしている。近所の散歩やホームの畑に出ることも含め、できるだけ外出を実践している。花見をはじめ、季節の催しに出かけることも多く、観劇の機会も設けている。	毎月1～2回、家族参加で遠方、夜間の外出(ほたる見物、花火大会、盆踊りなど)が実施されている。日々の散歩では土筆採りや花を摘んだり、菜園の世話や収穫などを楽しんでいる。また、ベランダのベンチでお茶会を催すなど、利用者の意向に沿った支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に小遣い程度の買い物を実施するなど、金銭感覚の維持を目標に、職員の見守りのもとで、可能な範囲で金銭に触れる機会を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プレゼントが送られてきたときにお礼の手紙を書く支援をしたり、電話など、家族や大切な人への取次ぎの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、職員と入居者が一緒になって花や壁飾りを替えることで空間演出をし、自然光の入るリビングで、心地よく過ごせるよう心がけている。不快な音や光、振動のほか、除菌やにおいについても快適性を求めている。	季節の花が飾られた、広いフロアーのソファでテレビを観たり、お喋りを楽しめるように寛げるよう配慮されている。水槽には、近くの川の魚や金魚が飼われ、餌やりは利用者が担当し、利用者の能力維持に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファのほか、ホームの中を自由に行き来でき、思い思いの気に入った場所で過ごしている。景色のよい窓際や、庭先の花壇の近くのベンチは、季節によって人気がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具やベッドなどを持ち込まれるよう家族にも協力をいただいている。レクリエーションで作れ、気に入った作品は、好みの場所への飾り付けて部屋を飾っている。	居室入り口には職員手作りの表札が掲げられ、室内には手すりやナースコールなどがあり、利用者の安全に配慮している。壁には自慢の作品や行事や家族の写真が貼られ、使い馴染んだ道具や仏壇などが持ち込まれ、利用者が暮らし易い、部屋作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、ゆっくりつかまり歩きをすることにも支障がない。また、戸惑いの表情を見かけたらなら、職員からゆっくり順序だてて説明をし、納得を得るよう、わかる力を活かした支援を目指している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375700933
事業所名	グループホーム 福住苑

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治会に入会しており、地域の行事は回覧板や区長から情報を得て、音楽会や盆踊りには利用者と一緒に参加している。阿久比の高校生、中学生、半田の中学生の職場体験の受け入れをしている。また、地域のボランティアの訪問も多い。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） メンバーは区長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族となっており2ヶ月に1回開催されている。会議では、入居状況や行事報告がされている。区長より色々なアドバイスや意見、情報をもらい地域との交流に取り組んでいる。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 阿久比町役場の担当者に運営推進会議の議事録を届けに役場を訪問したり、町主催の講習会や勉強会には積極的に参加し、交流に努めている。また、地域の人からの声かけにより健康診査も受けている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族の訪問時に意見や要望を出してもらえるよう努めている。家族から出された意見は、会議で話し合い職員に周知している。また、1年に1回家族面談も行っており、要望等を出してもらえる機会を設けている。管理者は月1回の請求書を送付の際に、一言コメントを添えている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。